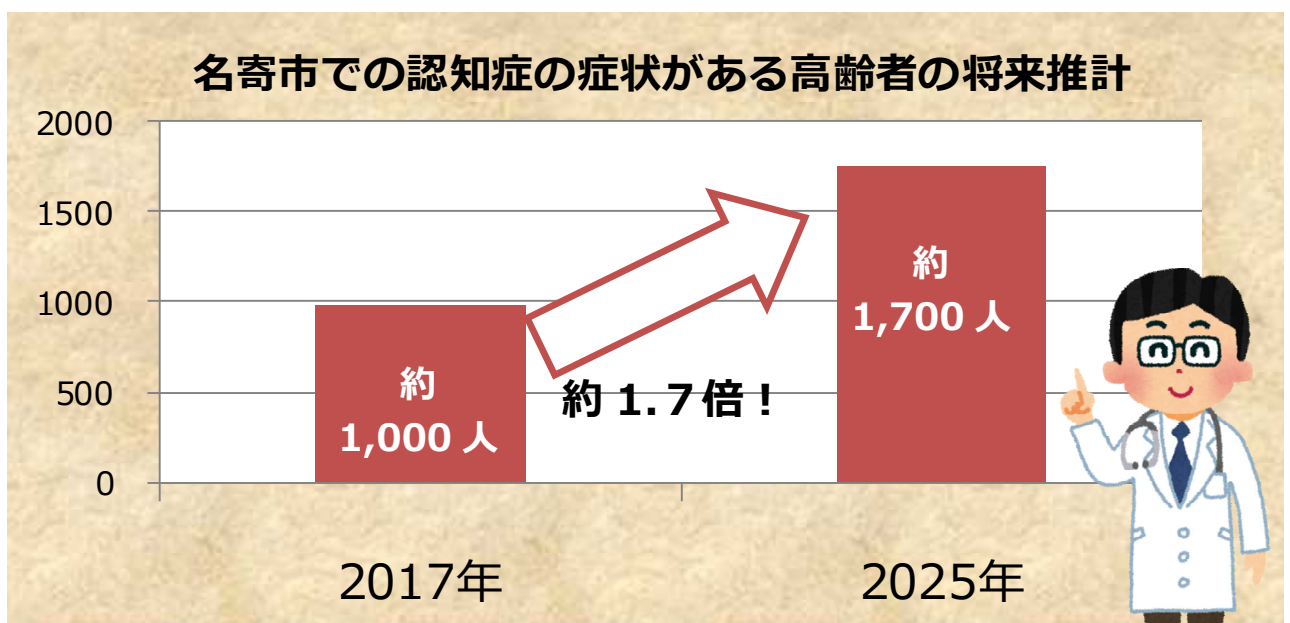
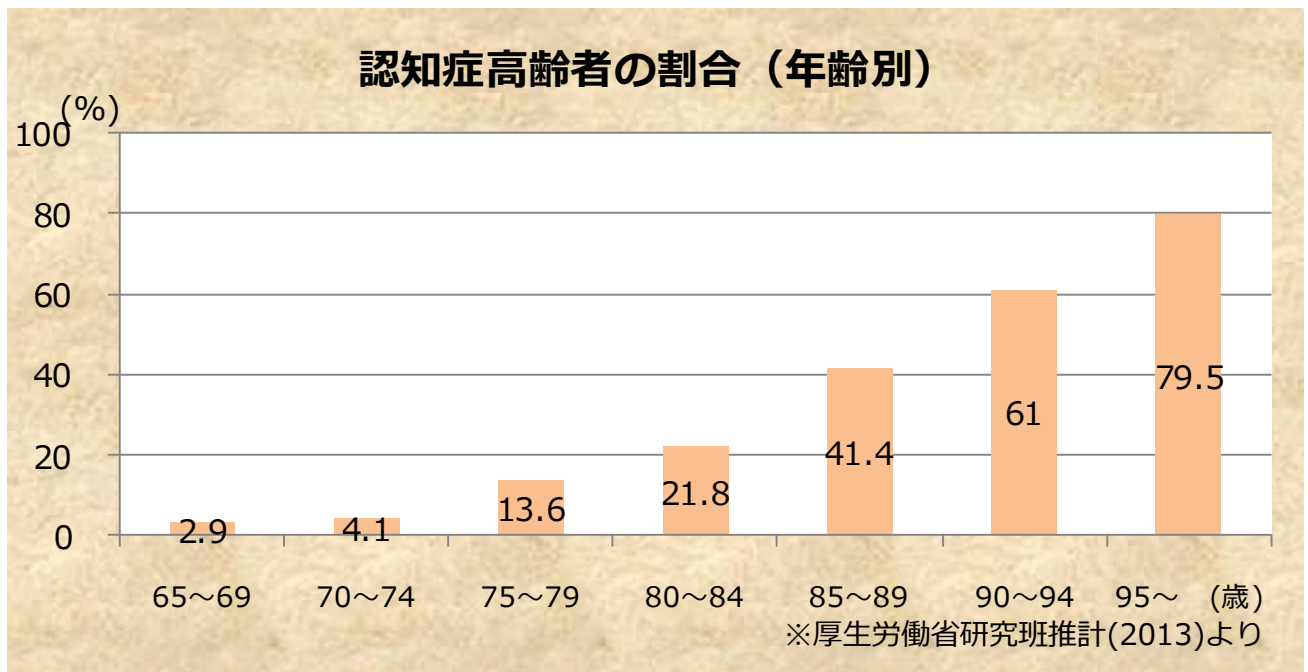


1

認知症は誰でもかかる可能性のある身近な病気です

「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」によると、65歳以上の約7人に1人が認知症とされています。また、2025年には約5人に1人が認知症になるだろうと推計されており、認知症は誰でもかかる可能性のある身近な病気です。

現在名寄市では、要介護認定者のうち何らかの認知症状がある方は約1,000人おり、2025年には約1,700人になると推計されています。

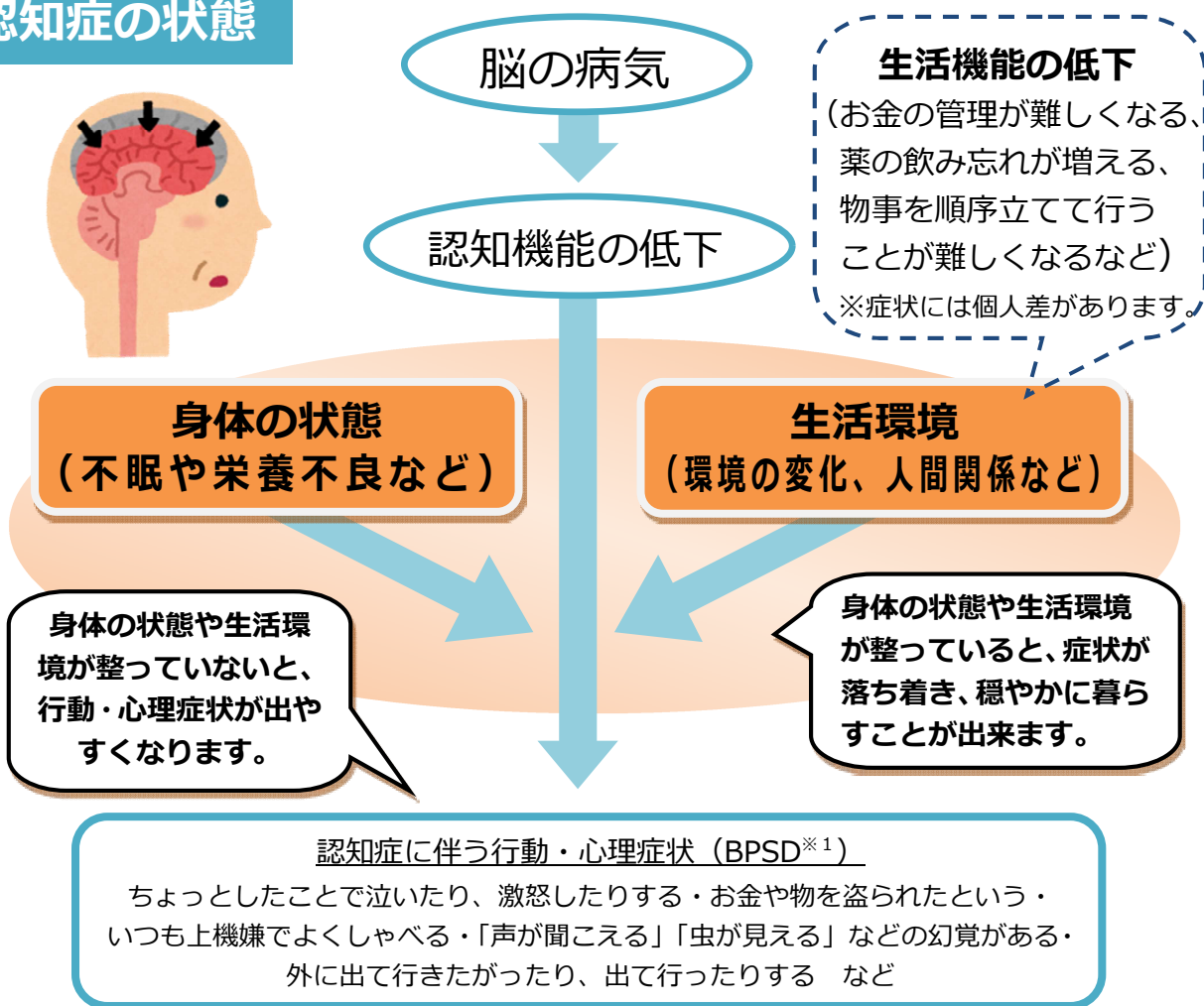


認知症とは？

いろいろな原因により、脳の細胞が傷ついたり、働きが悪くなることで、認知機能（記憶する、言葉を使う、計算する、問題を解決するなど）が低下し、さまざまな生活のしづらさ(生活機能の低下)が現れる状態を指します。身体の状態や生活環境などの刺激が加わることにより、行動・心理症状（BPSD）が現れる方もいます。

認知症は一般的に高齢者に多い病気ですが、65歳未満で認知症を発症する場合があります。この場合を「若年性認知症」と呼びます。

認知症の状態



※1 BPSD：記憶障害などの中核症状がもとになり、本人の性格や素質、周囲の環境や人間関係などが影響して出現する症状を「行動・心理症状（BPSD）」と呼びます。



認知症のような症状が現れても、早期に発見し、治療することで症状が改善することもあります。また、認知症のような症状が現れても認知症ではない可能性もありますので、ぜひ早めに受診しましょう。

<認知症のような症状が出る疾患>

正常圧水頭症・慢性硬膜下血腫・甲状腺機能低下症など